

ツキノワグマによる人身事故防止対策事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	シーリング	外	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	野坂雄二	
福井ふるさと元気宣言における位置付け	<input type="checkbox"/>	政推枠	ビジョン [元気な社会]			事業 区 分	<input type="checkbox"/> 国庫	<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算	事業 開始 年度	H27 年度	事業終了 予定年度	H30 年度
関連する県の計画等		政策	[豊かな環境、すぐれた風景を次の世代に]				<input checked="" type="checkbox"/> 県単	<input type="checkbox"/> 補助金		経過年数		
<p>[事業目的]</p> <p>近年過疎化や高齢化により里山が荒廃し、里山に定着するツキノワグマが増加することにより、人の生活とクマの生息地が近くなりつつある。県内狩猟者を対象とした講習会を開催し、クマの適切な管理と人身被害防止を図る。</p>												
<p>[事業内容]</p> <p>(1) ツキノワグマ出没情報収集配信システム保守点検 234千円 (委託) 平成27年度に構築した、ツキノワグマ出没情報収集配信システムの保守を委託する。</p> <p>(2) 堅果類豊凶調査 374千円 (再掲 予算は基金事業で計上) ツキノワグマの餌となる秋の堅果類(ドングリ類)の豊凶調査を実施し、秋のツキノワグマの出没予測を行い、市町、警察、猟友会、県関係機関が参加する「ツキノワグマ出没対策連絡会」での対策の資料とする。</p> <p>(3) 狩猟者育成講習会の開催 715千円 (委託) 県内狩猟者を対象に、ツキノワグマの狩猟技術向上のための実地研修とツキノワグマの生態や伝統文化、被害防止対策に関する知識習得のための講習会を開催し、ツキノワグマの狩猟文化の継承を図る。 【対象者】 県内狩猟者 30名 【内容】 ツキノワグマの生態、伝統文化、被害防止対策の講習 ツキノワグマの狩猟現場での狩猟技術講習(5月開催) 【会場】 奥越地区</p>												
[予算額の推移等] (単位：千円)												
区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	主な増減理由			
当初予算額の推移		/	/	/	8,721	949			システム構築費と生息状況調査の完了による減			
2月現計予算額の推移		/	/	/	8,721							
決算額の推移		/	/	/								
[成果指標等の推移]												
区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	人身被害件数 (目標)					(0)			クマによる人身被害件数を0件とする。			
	実績	0	3	4								
活動指標	ツキノワグマ出没件数 (目標)					(0)			県内には古来よりクマの生息しており出没報告は寄せられている。クマの出没報告件数は人身事故発生の危険性の指標となるが、報告件数は事故防止とは直接関係しないことから、目標数を設定することはできない。			
	実績	146	177	653								
[財源内訳・事業主体等]												
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	事業主体	県					
予算額	949				949	事業実施方法	直営					
						補助率	—					

事業評価

事業名	ツキノワグマによる人身事故防止対策事業	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	野坂雄二
<p>[事業の必要性・要求の背景]</p> <p>近年過疎化や高齢化により里山が荒廃し、里山に定着するツキノワグマが増加することにより、人の生活とクマの生息地が近くなりつつある。県内狩猟者を対象とした講習会を開催し、クマの適切な管理と人身被害防止を図る。 また、平成26年度に構築したツキノワグマ出没情報収集配信システムにより、各市町、県関係課、警察とツキノワグマ出没情報を共有する。</p>							
[受益者]				[想定される受益者数]			
県民							
他県の状況	<p>○富山県 9,000千円 生息調査 2,000千円 堅果類豊凶調査 2,000千円 市町村への補助金（パトロール、銃購入） 5,000千円</p> <p>○石川県 5,000千円 県民向けのフォーラム開催 400千円 市町・捕獲隊向け対策マニュアル作成 4,400千円 事務費 200千円</p>	前事業の有無・実績	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有	事業名 ツキノワグマによる人身事故防止対策事業 (実績) (1) ツキノワグマ出没情報共有、配信システムの構築 (2) 堅果類豊凶調査 (3) 生息状況調査			
関連事業の有無・役割分担	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)	市町との連携状況	・毎年、年2回市町を含めたツキノワグマ出没対策連絡会を開催し、ツキノワグマによる人身被害防止のための対策を確認。 ・H27年度に構築したツキノワグマ出没情報収集配信システムにより、ツキノワグマ出没情報を共有。				
[事業の評価]							
前年度の実績		実績を踏まえた28年度の変更点		事業評価			
(1) ツキノワグマ出没情報共有、配信システムの構築 (2) 堅果類豊凶調査 (3) 生息状況調査		平成26年度には、狩猟者がツキノワグマによる人身被害に遭ったため、狩猟者の技術向上のため育成講習会を開催する。 ツキノワグマ出没情報共有、配信システムの構築が完了したため、保守・運用に移行。 また、生息状況調査結果を個体数管理に使用する。		<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額
				<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	△ 7,772
				<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他	

㊦ コウノトリ放鳥・生息環境整備事業

区分	拡充	経費区分	政策的経費	シーリング	外	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	野坂雄二	
福井ふるさと元気宣言 における位置付け		■ 政推枠	ビジョン [元気な社会]			事業 区 分	<input type="checkbox"/> 国庫	■ 実行予算	事業 開始 年度	H22 年度	事業終了 予定年度	H30 年度
関連する県の計画等			政策 [豊かな環境、すぐれた風景を次の世代に]				<input checked="" type="checkbox"/> 県単	■ 補助金		経過年数		
[事業目的]												
自然再生のシンボルであるコウノトリを越前市白山地区で引き続き飼育し、幼鳥を巣立ちの時期に合わせて自然な形で放鳥するとともに、県内全域に生息環境を整備する。												
[事業内容]												
<p>(1) コウノトリ飼育・繁殖 つがいのコウノトリを越前市白山地区において飼育・繁殖させ、生まれた幼鳥を放鳥し福井に野外定着させる。 外部委託による専任飼育員による継続的な飼育を行い、効果的に飼育・繁殖を行う。 産卵期から巣立ち期（4月頃～8月頃）における見守り体制を強化するため、警備員を配置する。</p> <p>(2) 放鳥個体の追跡の実施 平成27年10月に放鳥したコウノトリに装着したGPS発信機を用いて、飛来位置を追跡する。</p> <p>(3) コウノトリ定着推進会議の開催 コウノトリ定着推進会議を開催し、コウノトリの野外定着に向けた対策検討や放鳥後の生態調査を報告・検証する。</p> <p>㊦ (4) 水田ビオトープの設置 コウノトリの生息環境整備を目的とした水田ビオトープを設置する</p>												
[予算額の推移等] (単位：千円)												
区 分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	主な増減理由				
当初予算額の推移	7,886	7,433	21,064	20,264	18,840			H27～ 県職員が行ってきた飼育を外部委託による飼育に変更 産卵期以降の見守り体制を強化するため、警備員を配置				
2月現計予算額の推移	4,886	5,431	21,064	20,264								
決算額の推移	3,796	3,360	21,056									
[成果指標等の推移]												
区 分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標・指標の考え方・積算根拠				
成果指標	コウノトリの放鳥個体数	(目標)			(2)	(3)	(3)	(2)	コウノトリの県内定着を目指していることから、県内に定着の可能性が高い本県生まれのコウノトリを放鳥することとしている。			
		実績			2							
活動指標	ビオトープ設置個所数	(目標)			8	(20)	(20)	(20)	コウノトリの県内定着には、餌環境の整備が重要であることか、コウノトリの餌となる水田ビオトープの設置数を拡大する			
		実績										
[財源内訳・事業主体等]												
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	事業主体	県					
予算額	18,840				18,840	事業実施方法	直営					
						補助率	—					

事業評価

事業名	㊦ コウノトリ放鳥・生息環境整備事業	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	野坂雄二
[事業の必要性・要求の背景]							
平成30年度までに福井県の飼育下で生まれたコウノトリ10羽を放鳥し、放鳥個体による県内での野外繁殖をめざすことにより、福井のすぐれた里地里山の再生と保全に対する県民意識を高める。							
[受益者]				[想定される受益者数]			
県民							
他県の状況		前事業の有無・実績		<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (実績)	事業名		
関連事業の有無・役割分担	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)	市町との連携状況		越前市においては、餌場環境の整備と地域住民への普及啓発に努め、またコウノトリ支援本部に飼育と環境整備に関わる職員を配置する。			
[事業の評価]							
前年度の実績		実績を踏まえた28年度の変更点		事業評価			
コウノトリ2羽を10月に放鳥		引き続き、コウノトリの飼育繁殖と放鳥を行う。あわせて、コウノトリの定着のためには、餌となるカエルやドジョウ等の水辺の多様な生き物が豊富にいる田園環境の面的な創出が必要であることから、水鳥が飛来する地域を対象として、県・市町・住民が一体となってビオトープを整備することで、定着に向けた環境づくりを進めていく。		<input checked="" type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額
				<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	
				<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他	

新 三方五湖・北潟湖自然再生事業

区分	新規	経費区分	政策的経費	シーリング	外	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	野坂雄二	
福井ふるさと元気宣言における位置付け		<input type="checkbox"/> 政推枠	ビジョン [元気な社会]			事業区分	<input type="checkbox"/> 国庫	<input type="checkbox"/> 実行予算	事業開始年度	H28 年度	事業終了予定年度	H30 年度
			政策 [豊かな環境、すぐれた風景を次の世代に]				<input checked="" type="checkbox"/> 県単	<input type="checkbox"/> 補助金				
関連する県の計画等			[三方五湖自然再生実施計画]				<input type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> その他		1 年		
[事業目的]												
<p>三方五湖と北潟湖は、日本の重要湿地500にも選定されている本県を代表する湖沼である。三方五湖では、三方五湖自然再生協議会（平成23年5月設立）において、北潟湖では「北潟湖の自然再生に関する協議会（平成25年3月設立）」において、地元市町と地域住民、農漁業者、研究者が主体となって、地域固有の自然に即した再生活動を展開しており、今後さらに活動を活発化させて、自然を保全、再生しつつ、その魅力を全国にアピールしていくことを目的とする。</p>												
[事業内容]												
<p>○三方五湖自然再生事業実施計画に基づき三方五湖の自然の保全、再生、活用を行う</p> <p>①負担金対象者 三方五湖自然再生協議会</p> <p>②負担金額 2,000千円（事業総額 8,000千円（国1/2、県1/4、若狭町1/8、美浜町1/8））</p> <p>②活動内容 水田養魚による水産資源の確保、魚道・退避水路の整備、ヒシ刈り、特定外来種等の駆除、カヤ田の保全再生の支援、環境教育等</p> <p>○あわら市、農漁業者、地域住民、大学研究者が共働して北潟湖の自然の保全、再生、活用を行う</p> <p>①負担金対象者 北潟湖の自然再生に関する協議会</p> <p>②負担金額 1,000千円（事業総額 4,000千円（国1/2、県1/4、あわら市1/4））</p> <p>②活動内容 観察会やフォーラムの開催による自然の魅力の発掘、北潟湖の水産資源（シジミ等）の調査、外来種駆除等 自然再生法に基づく自然再生協議会の設立に向けた準備（北潟湖の自然再生を進める実施計画案づくり）</p>												
[予算額の推移等] (単位：千円)												
区分	分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	主な増減理由			
当初予算額の推移		1,669	3,498	3,538	3,184	3,000	3,000	3,000				
2月現計予算額の推移		1,669	3,498	3,538	3,184							
決算額の推移		1,465	2,931	3,538								
[成果指標等の推移]												
区分	分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	協議会の開催	(目標) 3	3	5	(5)	(5)	(5)	(5)	[三方五湖] ※自然再生活動と協議会での対策を協議し自然再生を進める ・生物多様性の保全のため協議会で適正なヒシの管理指針を平成27年度までに作成			
活動指標	自然再生活動数	(目標) 10	14	19	(20)	(20)	(20)	(20)	・三方湖産の魚類を増やす水田養魚マニュアルを平成27年度までに作成 ・三方湖における外来魚駆除の検証結果を踏まえ、効果的対策方針を作成 [北潟湖] ※同上 ・地域の自然再生団体による活動が活発化を図るフォーラムを開催			
[財源内訳・事業主体等]												
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	事業主体		三方五湖自然再生協議会（自然再生法の法定協議会） 北潟湖の自然再生に関する協議会（任意協議会）				
予算額	3,000				3,000	事業実施方法		負担金				
						補助率		—				

事業評価

事業名 ㊦ 三方五湖・北潟湖自然再生事業	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	野坂雄二	
[事業の必要性・要求の背景] ○三方五湖では、県、美浜町、若狭町、漁業協同組合、農業者等が参加する三方五湖自然再生協議会を設立し、平成25年3月に「三方五湖自然再生実施計画」を策定した。これを受け、平成25年度から3か年計画で、環境省生物多様性保全推進交付金（国庫1/2、県・若狭町・美浜町が合わせて1/2の負担金を支出）を得て、三方五湖自然再生実施計画の事業を実行した。これにより自然再生が着実に進展し、若狭町、美浜町では、平成28年度からもさらに自然再生へ負担金を拠出し自然再生をさらに進める計画をしている。国も継続支援するとしており、県としても、これまで進めてきた成果をさらに進展させるために、事業継続したい。 ○北潟湖では、県、あわら市、漁業協同組合、農業者等が参加する「北潟湖の自然再生に関する協議会」を設立し、水田魚道の設置や、観察会、フォーラムの開催を進めてきた。しかし、自然再生の実実施計画がなく具体的な自然再生は不十分で、あわら市では、今後、環境省の財政的な支援を得て、同協議会を法定協議会として自然再生の推進と新幹線延伸に伴い北潟湖を全国へアピールしたいとしている。このため、国とともに県が財政面でも支援し、地域主体の自然再生を行いたい。							
[受益者] 三方五湖周辺の住民、北潟湖周辺の住民			[想定される受益者数]				
他県の状況	滋賀県琵琶湖 「内湖再生全体ビジョン（平成25年3月作成）による自然再生の推進 島根県・鳥取県中海 「中海自然再生実施計画（平成24年3月作成）による自然再生の推進 自然再生の推進（中海自然再生協議会（H20.11）作成）	前事業の有無・実績	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 三方五湖・北潟湖生物生息環境再生事業 （実績） [三方五湖] ・法定協議会「自然再生協議会」の設立（H23.5） ・自然再生フォーラムや観察会等の開催、カヤ田の保全、ヒシ刈り等の実施（H25～H27） ・ヒシの管理指針の作成（H27） ・水田養魚のマニュアルの作成（H27） [北潟湖] ・北潟湖の自然再生に関する協議会」の設立（H25） ・水田魚道の設置、魚類の育成効果を検証、地域の子供対象の魚観察会（H25～H27）、フォーラム・エクスカージョンの開催（H27）				
関連事業の有無・役割分担	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 （役割分担）	市町との連携状況	三方五湖自然再生協議会では、若狭町と美浜町が県とともに事務局を担い、負担金を拠出している。				
[事業の評価]							
前年度の実績		実績を踏まえた28年度の変更点		事業評価			
下記により活動目標、成果指標とも達成 [三方五湖] ・生物多様性の保全のため協議会で適正なヒシの管理指針を作成 ・三方湖産の魚類を増やす水田養魚マニュアルを作成 ・三方湖の外来魚駆除の検証結果により効果的対策方針を作成 [北潟湖] ・地域の自然再生団体による活動が活発化を図るフォーラムを開催 ・地域の自然の魅力を探るエクスカージョンを実施 ・水田魚道を新たに1基設置（合計6か所）魚の観察会を開催		試行的な活動をさらに発展させる活動の拡大（H30年まで） [三方五湖] ・ヒシの管理指針のゾーニング計画の達成に向けたヒシ刈り ・三方湖産の魚類を育成し、漁協への流通システムを構築 [北潟湖] ・フォーラムとエクスカージョンの充実 ・北潟湖の魚介類の生物調査と漁業振興と保全方法の検討 ・北潟湖自然再生協議会の設立に向けた準備		<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額
		<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了			
		<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他			

SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワーク事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	シーリング	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	野坂雄二	
福井ふるさと元気宣言における位置付け	<input type="checkbox"/>	政推枠	ビジョン [元気な社会]			事業 区分	<input type="checkbox"/> 国庫	<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算	事業 開始 年度	H27 年度	事業終了 予定年度	H30 年度
関連する県の計画等		政策	[豊かな環境、すぐれた風景を次の世代に]				<input checked="" type="checkbox"/> 県単	<input type="checkbox"/> 補助金		経過年数		
[事業目的]												
<p>福井・石川両県知事の共同代表のもと平成25年9月に発足した「SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワーク」を「SATOYAMAイニシアティブ」の理念を国内で共有するプラットフォームとして位置付け、SATOYAMAにおける生物多様性の保全や利活用を「国民的運動」へと展開する。</p>												
[事業内容]												
<p>①～③を通し、県内と他県の子どもたちの間で、「里遊び」を軸にした相互交流、ネットワークを構成する自治体の教員や里山里海湖研究所の活用を促進する。</p> <p>①国内におけるSATOYAMAイニシアティブの普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市圏における参加団体共同による活動の発信 ・先進的な活動事例の認定や表彰制度の構築 <p>②里山等地域の保全や利活用に関する成果の情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加団体の情報発信や集いの場としてシンポジウムの開催および情報誌の発行 <p>③SATOYAMAづくりに関する対話と実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加団体の課題やニーズに応じたワーキンググループ等の開催 ・活動の裾野拡大や質的向上を図るための有効な方策の検討 												
[予算額の推移等] (単位：千円)												
区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	主な増減理由			
当初予算額の推移		/	/	/	1,350	768			事業実績に伴う経費の見直しによる減額			
2月現計予算額の推移		/	/	/	1,350							
決算額の推移		/	/	/								
[成果指標等の推移]												
区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワーク参加団体数	/	101	(103) 103	(105) 106	(107)			新規登録団体 2団体/年			
		/										
活動指標	セミナーの開催	/		(2) 2	(2) 4				会員相互の情報交換と会員の日ごろの自然再生活動に必要な技術や知識の向上を図ることを目的にセミナーを開催する。			
		/										
[財源内訳・事業主体等]												
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	事業主体		SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワーク事務局				
予算額	768				768	事業実施方法		直営				
						補助率		-				

事業評価

事業名	SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワーク事業	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	野坂雄二																		
<p>[事業の必要性・要求の背景]</p> <p>SATOYAMAイニシアティブ（里山など二次的自然環境における生物多様性の保全とその持続可能な利用両立を図る取組）を推進していくためには、各セクターの主体的な取組に加え、多様な主体が協力、連携して、取組を進めていくことが重要であるため。</p>																									
<p>[受益者]</p> <p>全国の自然再生活動団体、CSR活動企業</p>				<p>[想定される受益者数]</p>																					
他県の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・石川県と共同でSATOYAMAイニシアティブ推進ネットワークを運営。石川県も同等の金額を予算計上予定。 ・SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワークに参加している他県もセミナーや現地視察等のイベントに参加。 	前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (実績)																						
関連事業の有無・役割分担	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)	市町との連携状況	該当なし																						
<p>[事業の評価]</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 35%;">前年度の実績</th> <th style="width: 30%;">実績を踏まえた28年度の変更点</th> <th colspan="3" style="width: 35%;">事業評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3"> <p>長野県、栃木県で里山里湖での保全活動の現地視察やセミナーを行い、ネットワーク参加者どうしの交流、情報交換を図った。また、東京で開催された日本最大級の環境展示会で福井県の里山里湖の保全活動やネットワーク活動を全国に発信。</p> <p>SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワークの情報発信の強化のためロゴマークを作成。</p> <p>SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワーク普及啓発および異業種間のマッチングを図るため、活動事例集を作成、ホームページで紹介。</p> </td> <td rowspan="3"> <p>これまで福井県と石川県が折半して事務局運営の予算を負担していたが、今後はSATOYAMAイニシアティブ推進ネットワークの参加団体の他の行政団体から運営費を募り、事務局を持ち回りで運営していくよう検討する。</p> </td> <td><input type="checkbox"/> 拡充</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 縮減</td> <td><input type="checkbox"/> 終期の見直し</td> <td rowspan="2" style="text-align: center;">見直し額</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 継続</td> <td><input type="checkbox"/> 休止</td> <td><input type="checkbox"/> 完了</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 整理統合</td> <td><input type="checkbox"/> 廃止</td> <td><input type="checkbox"/> その他</td> <td style="text-align: center;">△ 582</td> </tr> </tbody> </table>								前年度の実績	実績を踏まえた28年度の変更点	事業評価			<p>長野県、栃木県で里山里湖での保全活動の現地視察やセミナーを行い、ネットワーク参加者どうしの交流、情報交換を図った。また、東京で開催された日本最大級の環境展示会で福井県の里山里湖の保全活動やネットワーク活動を全国に発信。</p> <p>SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワークの情報発信の強化のためロゴマークを作成。</p> <p>SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワーク普及啓発および異業種間のマッチングを図るため、活動事例集を作成、ホームページで紹介。</p>	<p>これまで福井県と石川県が折半して事務局運営の予算を負担していたが、今後はSATOYAMAイニシアティブ推進ネットワークの参加団体の他の行政団体から運営費を募り、事務局を持ち回りで運営していくよう検討する。</p>	<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額	<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他	△ 582
前年度の実績	実績を踏まえた28年度の変更点	事業評価																							
<p>長野県、栃木県で里山里湖での保全活動の現地視察やセミナーを行い、ネットワーク参加者どうしの交流、情報交換を図った。また、東京で開催された日本最大級の環境展示会で福井県の里山里湖の保全活動やネットワーク活動を全国に発信。</p> <p>SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワークの情報発信の強化のためロゴマークを作成。</p> <p>SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワーク普及啓発および異業種間のマッチングを図るため、活動事例集を作成、ホームページで紹介。</p>	<p>これまで福井県と石川県が折半して事務局運営の予算を負担していたが、今後はSATOYAMAイニシアティブ推進ネットワークの参加団体の他の行政団体から運営費を募り、事務局を持ち回りで運営していくよう検討する。</p>	<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額																				
		<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了																					
		<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他	△ 582																				

実学研究の推進

区分	継続	経費区分	政策的経費	シーリング	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課		課長名	野坂 雄二															
福井ふるさと元気宣言における位置付け		■ 政推枠	ビジョン [元気な里山里海湖]			事業区分	<input type="checkbox"/> 国庫	■ 実行予算	事業開始年度	H26 年度	事業終了予定年度	H30 年度															
関連する県の計画等		政策	[豊かな環境、すぐれた風景を次の世代に]				<input type="checkbox"/> 県単	□ 補助金		経過年数																	
			[福井県里山里海湖研究所中期計画]			<input type="checkbox"/> その他	□ その他		3 年																		
[事業目的]																											
年縞や豊かな自然環境など、本県が誇るべき里山里海湖による恵みの価値を再認識し、生物多様性の確保と福井の豊かな暮らしの承継につなげるため、里山里海湖の恵みを人々の暮らしに結びつける工夫を研究する。																											
[事業内容]																											
4名の研究者が、以下の分野において、里山里海湖の恵みを人々の暮らしに結びつける工夫を研究する。																											
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">研究項目</th> <th style="width: 65%;">研究内容</th> <th style="width: 20%;">研究員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>環境考古</td> <td>年縞を基に、過去の気候と人の暮らしの関わりを解明し、これからの生活に活かす研究</td> <td>北川 淳子</td> </tr> <tr> <td>保全生態</td> <td>里山里海湖の生物多様性の保全・再生および生態系サービスの分析評価に関する研究</td> <td>石井 潤</td> </tr> <tr> <td>里地里山文化</td> <td>里に伝わる伝統的な技、文化、習俗等の資料を収集・整理し、県民の生活に活かす研究</td> <td>中村 亮</td> </tr> <tr> <td>森里海湖連環</td> <td>里地里山里海湖での幼少期からの自然体験を通じた子どもたちの感性を育む実践的研究</td> <td>福島 空</td> </tr> </tbody> </table>													研究項目	研究内容	研究員	環境考古	年縞を基に、過去の気候と人の暮らしの関わりを解明し、これからの生活に活かす研究	北川 淳子	保全生態	里山里海湖の生物多様性の保全・再生および生態系サービスの分析評価に関する研究	石井 潤	里地里山文化	里に伝わる伝統的な技、文化、習俗等の資料を収集・整理し、県民の生活に活かす研究	中村 亮	森里海湖連環	里地里山里海湖での幼少期からの自然体験を通じた子どもたちの感性を育む実践的研究	福島 空
研究項目	研究内容	研究員																									
環境考古	年縞を基に、過去の気候と人の暮らしの関わりを解明し、これからの生活に活かす研究	北川 淳子																									
保全生態	里山里海湖の生物多様性の保全・再生および生態系サービスの分析評価に関する研究	石井 潤																									
里地里山文化	里に伝わる伝統的な技、文化、習俗等の資料を収集・整理し、県民の生活に活かす研究	中村 亮																									
森里海湖連環	里地里山里海湖での幼少期からの自然体験を通じた子どもたちの感性を育む実践的研究	福島 空																									
[予算額の推移等] (単位：千円)																											
区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	主な増減理由																		
当初予算額の推移		/	/	12,000	11,955	8,764	9,100	9,300	外部研究者と連携した外部資金の活用や、備品等の初期投資の減少により予算額を縮小																		
2月現計予算額の推移		/	/	12,000	10,108																						
決算額の推移		/	/	11,960																							
[成果指標等の推移]																											
区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標・指標の考え方・積算根拠																		
成果指標	(目標) 実績	/	/						5年間の研究期間の途中年度毎に研究成果を数値化することは困難																		
活動指標	研究テーマ数	(目標) 実績	/	/	(4)	(4)	(4)	(4)	(4)	各研究員が研究項目ごとに研究を行う																	
[財源内訳・事業主体等]																											
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	事業主体		県																			
予算額	8,764				8,764	事業実施方法		直営																			
						補助率		-																			

事業評価

事業名	実学研究の推進	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	野坂 雄二	
[事業の必要性・要求の背景]								
<p>本県の里山里海湖の自然環境や水月湖の年縞など、全国に誇れる地域資源について、科学的な解明、評価、研究が十分に行われていないことから、科学的な知見を取り入れた研究を行うことにより、その魅力の向上や研究成果の実践的活用につなげていく。</p>								
[受益者]				[想定される受益者数]				
他県の状況	県レベルでの里山里海湖に関する研究を行う組織は他県にはない。			前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (実績)			
関連事業の有無・役割分担	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)			市町との連携状況	研究の実施において、市町関係施設等との連携を図っている。			
[事業の評価]								
前年度の実績		実績を踏まえた28年度の変更点			事業評価			
これまでの研究成果についての県民および各地域への発表会の実施および、地域における協議会等への参加などを通じて、研究成果の地域への還元に取り組んでいる。		外部の研究者と連携を進めることにより、外部資金の活用を行ったことから経費を縮小。 また、福井県立大学研修員の身分を使い文部科学省の科研費申請を行い、更なる経費削減に努める。			<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額
					<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	△ 3,191
					<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他	

研究活動発表会

区分	継続	経費区分	政策的経費	シーリング	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	野坂雄二	
福井ふるさと元気宣言 における位置付け		■ 政推枠	ビジョン [元気な社会]			事業 区分	<input type="checkbox"/> 国庫	■ 実行予算	事業 開始 年度	H26 年度	事業終了 予定年度	H30 年度
関連する県の計画等			政策 [豊かな環境、すぐれた風景を次の世代に]				<input checked="" type="checkbox"/> 県単	<input type="checkbox"/> 補助金		経過年数		
<p>[事業目的]</p> <p>研究員が1年間で実施した研究活動の成果を県民に発信するとともに、県民からの意見を今後の活動に取り入れる。 また、発表会の開催に合わせて、里山里海湖保全に関する映画上映会や県内の活動者の事例発表会なども実施し、県民の里山里海湖保全・活用に関する機運を高めるイベントとして実施する。</p> <p>[事業内容]</p> <p>○事業内容</p> <p>(1) 基調講演 里山里海湖保全の第一人者に講演を依頼 (2) 研究発表 4名の研究員が1年間の研究活動の成果を発表 (3) 活動者表彰 里山里海湖の保全再生に頑張る団体等の表彰および活動内容の発表 (4) 映画上映 里山里海湖保全に関連する映画を上映 ※各研究員ごとの研究活動発表は別途行う(研究推進費対応)</p> <p>○実施時期 平成29年2月(予定)</p>												
[予算額の推移等] (単位：千円)												
区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	主な増減理由			
当初予算額の推移		/	/	380	1,028	1,029	1,029	1,029	平成27年度より発表会の開催に合わせて、里山里海湖保全に関する映画上映会や県内の活動者の事例発表会なども実施し、県民の里山里海湖保全・活用に関する機運を高めるイベントとして実施することとした。			
2月現計予算額の推移		/	/	380	1,028							
決算額の推移		/	/	353								
[成果指標等の推移]												
区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	県民参加者数	(目標)	/	(400)	(200)	(200)	(200)	(200)	サンドーム福井小ホールでの開催を想定			
		実績	/	280								
活動指標	開催回数	(目標)	/	(2)	(1)	(1)	(1)	(1)	年度終わりに当該年度の研究活動の内容を県民に発表する機会を設ける			
		実績	/	2								
[財源内訳・事業主体等]												
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	事業主体	県					
予算額	1,029				1,029	事業実施方法	直営					
						補助率	-					

事業評価

事業名	研究活動発表会	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	野坂雄二
[事業の必要性・要求の背景]							
<p>研究所の研究活動について、県民への周知を図ることで、研究所の活動に対する県民の理解形成につなげるとともに、研究活動への県民からの意見を聞くことで地域に貢献する実学研究につなげる。</p>							
[受益者]				[想定される受益者数]			
県民				200人			
他県の状況	里山里海湖専門の研究機関はない	前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (実績)				
関連事業の有無・役割分担	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)	市町との連携状況					
[事業の評価]							
前年度の実績		実績を踏まえた28年度の変更点		事業評価			
26年度：1回目（5/16）参加者100名、2回目（3/7）参加者180名 予定通り2回開催、研究発表会だけでは集客が難しかったため、2回目は3部構成とし、第1部の研究発表のあと、第2部和太鼓演奏や里山里海湖表彰等、第3部で講演会およびトークセッションを行うことで参加者を増やすことができた。		出来る限り多くの県民に研究活動の状況を知らせるため、27年度と同様に、講演会や映画上映等も同時に開催する。		<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額
				<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	
				<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他	

「残そう・伝えよう！」身近な生きもの調査事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	シーリング	外	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	野坂雄二
福井ふるさと元気宣言 における位置付け		■ 政推枠	ビジョン [元気な社会] 政策 [豊かな環境、すぐれた風景を次の世代に]			事業 区分	<input type="checkbox"/> 国庫 <input checked="" type="checkbox"/> 県単 <input type="checkbox"/> その他	■ 実行予算 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他	事業 開始 年度 H27 年度 経過年数 2 年	事業終了 予定年度	H30 年度
関連する県の計画等			[]								
[事業目的]											
地域と小学校、里山里海湖研究所が共働し、地域の身近な自然環境の保全・再生を行うため、子どもたちが継続的に身近な生きものの調査・保全活動を実施する。											
[事業内容]											
(1) 実施小学校 ・ 平成27年度 県小学校教育研究会の7ブロックから2校ずつ 計14校で実施 ・ 平成28年度 7ブロックそれぞれに1校ずつ追加 計21校 (2) 調査対象 ・ 学校の身近な生きものを調査対象とし、継続した調査・保全活動を行う。 (例) ホタル、ミチノクフクジュソウ、イトヨ、トンボ、ビオトープの生きものなど (3) 支援内容 ・ 学校専任の里山里海湖学校教育アドバイザー、自然再生支援隊を派遣 ・ 生きもの観察・調査資機材の助成 ・ 全体を総括するコーディネーターを派遣し、調査票、報告書等を作成											
[予算額の推移等] (単位：千円)											
区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	主な増減理由		
当初予算額の推移		/	/	/	3,417	4,548	4,300	4,300	27→28：実施校の拡大（14から21校）による増 29～：調査票作成に係る委託料の減		
2月現計予算額の推移		/	/	/	3,417						
決算額の推移		/	/	/							
[成果指標等の推移]											
区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標・指標の考え方・積算根拠		
成果指標	参加児童数	(目標)	/	/	(500)	(800)	(800)	(800)	H26年度身近な生きもの生息環境調査事業8校302人参加 302÷8≒38 38×14≒500、38×21≒800		
	実績	/	/	/							
活動指標	生きもの調査実施校数	(目標)	/	/	(14)	(21)	(21)	(21)	県内7ブロックから選定 平成28年度以降は継続的な調査を実施		
	実績	/	/	/							
[財源内訳・事業主体等]											
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	事業主体		県			
予算額	4,548				4,548	事業実施方法		委託、補助			
						補助率		10/10			

事業評価

事業名	「残そう・伝えよう！」身近な生きもの調査事業	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	野坂雄二
[事業の必要性・要求の背景]							
<p>小学校において様々な形で生きもの調査等が実施されてきたが、担当教員の異動や実施に係る負担が大きいことにより継続が困難となっている現状がみられる。ふるさと福井の将来を担う小学生が、身近な自然環境の保全・再生に取り組むためには、学校側の負担を減らし、地域との連携を強めていくことが求められる。</p>							
[受益者]				[想定される受益者数]			
県内小学校児童				年間800人			
他県の状況	・単発的に生きもの調査等を主催して実施している県はあるが、生きもの調査・保全活動の継続を目的に事業を実施している県はない。	前事業の有無・実績	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 身近な生きもの生息環境調査事業 (実績) 県内7ブロックごとに、身近な生きもの調査をするモデル校を指定し、トンボ、メダカ、積雪量の共通調査と学校独自の学校別調査を実施。 県内8小学校(302人)が参加				
関連事業の有無・役割分担	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)	市町との連携状況	・市町教育委員会との連絡				
[事業の評価]							
前年度の実績		実績を踏まえた28年度の変更点		事業評価			
県小教研7ブロックにおいて、それぞれ2校ずつ合計14校で実施。 調査票の設計や調査のコーディネートを行うことで、継続的な調査・保全活動が行えるようなシステムが構築されつつある。		継続的な活動が行えるようなシステムとなるよう検証を加えていくとともに、14校以外からの支援を求める声を受け、各ブロック1校ずつ増加させ、計21校で実施。		<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額
				<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	
				<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他	

ふくい生きもの歳時記体感事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	シーリング	外	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	野坂雄二	
福井ふるさと元気宣言 における位置付け		■ 政推枠	ビジョン [元気な里山里海湖]			事業 区分	<input type="checkbox"/> 国庫	■ 実行予算	事業 開始 年度	H27 年度 経過年数 2 年	事業終了 予定年度 H30 年度	H30 年度
関連する県の計画等			政策 [豊かな環境、すぐれた風景を次の世代に]				<input type="checkbox"/> 県単	□ 補助金				
[事業目的]												
<p>人の営みや生きものが季節に応じて移ろう様子を表す二十四節気などに見られる福井の生きものや気候などを、県民が参加して調査することにより、「身近な自然を発見」し、「人の営みと自然との関係」を体感することで、福井の里山里海湖の素晴らしさを県民自らが語り、次世代につなげる。</p>												
[事業内容]												
<p>(1) 調査方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県民が年間を通じ、その時季ならではの生きものや体験を記録し、随時ホームページやFAX等で里山里海湖研究所に報告 ・ 小学校4年生を対象に「身近な生きもの観察シート」を配付し、上記の記録・報告を促進 ・ 中学校理科教員全員を研究所の研究推進員に委嘱し、生きもの等の調査を実施 <p>(2) 周知方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「身近な生きもの観察シート」、「七十二候を学ぶ歳時記シート」を配付 ・ 研究所ホームページ、県広報誌等で周知 <p>(3) 活用方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究所ホームページで公開し、県民が季節ごとの福井の自然を楽しみ、学ぶ ・ 調査結果を研究推進員がそれぞれの学校で環境教育に活用 												
[予算額の推移等] (単位：千円)												
区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	主な増減理由			
当初予算額の推移		/	/	/	3,236	2,306	2,306	2,306	ホームページ作成にかかる経費の減少			
2月現計予算額の推移		/	/	/	3,236							
決算額の推移		/	/	/								
[成果指標等の推移]												
区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	報告件数	(目標)	/	/	(300)	(600)	(600)	(600)	50件/月×12月=600件 (※27年度は6か月)			
		実績	/	/	/							
活動指標	歳時記シート等の配布	(目標)	/	/	(4)	(4)	(4)	(4)	季節ごとに作成し、配布することにより事業の周知と気運の高まりを目指す。			
		実績	/	/	/							
[財源内訳・事業主体等]												
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	事業主体		県				
予算額	2,306				2,306	事業実施方法		直営				
						補助率		—				

事業評価

事業名	ふくい生きもの歳時記体感事業	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	野坂雄二
[事業の必要性・要求の背景]							
<p>二十四節気や七十二候などに表れる、季節に応じた生きものや気候などの身近な自然の移ろいを、大人から子供まで県民が幅広く参加して観察し、報告することを通して、季節の移ろいや福井の里山里海湖の豊かな自然を実感する。</p>							
[受益者]				[想定される受益者数]			
県民							
他県の状況	<p>年間通じた季節の移ろいの様子を調査するものはない。</p> <p>中学校勤務の理科教員全員を研究推進員に委嘱し、連携した事業を行っている都道府県はない。</p>	前事業の有無・実績	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (実績)				
関連事業の有無・役割分担	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)	市町との連携状況					
[事業の評価]							
前年度の実績		実績を踏まえた28年度の変更点		事業評価			
<p>県民向け「福井の生きもの歳時記シート」（秋・冬・春）、小学校4年生向け「身近な生きもの観察シート」（秋・冬・春）を配布。研究所のホームページに機能追加の形で、生きもの情報を提供してもらうシステムを構築。パソコンやスマートホンなどから簡単に報告できるようにした。</p> <p>中学校理科教員238名を研究推進員に委嘱し、季節の生きもの調査等に参画してもらう。</p>		<p>多くの県民に、季節の移ろいを感じてもらい、日常の話題としてもらうために、27年度と同様に、季節ごとの歳時記シートを配布するとともに、理科の授業で季節の生きものを取り扱う小学校4年生対象の生きもの観察シートを配布する。</p> <p>また、27年度に専用ホームページの立ち上げが完了したため、保守・運用に移行する。</p>		<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額
				<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	△ 930
				<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他	

里山里海湖学校教育プログラム集作成

区分	継続	経費区分	政策的経費	シーリング	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	野坂雄二	
福井ふるさと元気宣言における位置付け		■ 政推枠	ビジョン [元気な里山里海湖]			事業 区分	<input type="checkbox"/> 国庫	■ 実行予算	事業 開始 年度	H25 年度	事業終了 予定年度	H28 年度
関連する県の計画等			政策 [豊かな環境、すぐれた風景を次の世代に]				<input type="checkbox"/> 県単	□ 補助金				
						<input type="checkbox"/> その他	□ その他					
[事業目的]												
「SATOYAMA国際会議2013inふくい」を契機に、子どもたちに里山里海湖資源を活用して学ばせることができるプログラムを作成し、小中学校および関係機関において活用することにより、持続可能な社会に向けた環境教育をさらに推進する。												
[事業内容]												
<p>(1) 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小中学校の教科・領域において、県内の里山里海湖資源を活用し、生物多様性、人の営み、景観、年縞についての授業が行える環境教育プログラム ・ 26年度には「三方五湖周辺体験プログラム」、27年度には「あわら市北潟湖周辺」「大野市六呂師高原周辺」を作成したことを受け、28年度は「南越地区」におけるプログラムを作成 ・ 北潟湖周辺および六呂師高原周辺におけるプログラムの効果を検証するため、モデル校（各5校）に対しバスを手配 <p>(2) 印刷部数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4,000部（小学校学級数：1,987学級 中学校学級数：927学級 学校保管：280校 教育委員会等：806部） <p>(3) 使用方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小中学校の教科・領域において、里山里海湖の環境教育指導案や校外学習プランとして活用 												
[予算額の推移等] (単位：千円)												
区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	主な増減理由			
当初予算額の推移		/	/	2,160	2,339	2,331			加除式による各学校への配布を行うため、印刷製本費を縮小（26⇒27） 作成したプログラムの効果検証のためのバス使用料を追加（26⇒27）			
2月現計予算額の推移		/	/	2,160	2,339							
決算額の推移		/	/	2,160								
[成果指標等の推移]												
区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	プログラム該当地における体験プログラム実施校数	(目標)	実績	/	/	(20)	(40)		小学校数194校のうち、1地区1割程度が体験実施			
活動指標	プログラム作成地域数	(目標)	実績	/	/	(1)	(2)	(1)				
				1					三方、芦原、奥越高原、鯖江の県立青年の家（青少年自然の家）と連携した自然体験を実施していくため、3年間で4か所のプログラムを作成			
[財源内訳・事業主体等]												
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	事業主体		県				
予算額	2,331				2,331	事業実施方法		直営				
						補助率		—				

事業評価

事業名	里山里海湖学校教育プログラム集作成	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	野坂雄二	
[事業の必要性・要求の背景]								
<p>農耕などを通じて、人間が自然環境に関わりつづけることにより形成・維持されている自然環境や文化、習俗について、児童・生徒が学び・体験することで、福井の里山里海湖を持続可能な形で開発するための人づくりにつなげる。</p>								
[受益者]				[想定される受益者数]				
県内小・中学生および教員				約70,000人（小学校児童43,298人、教員3,130人・中学校生徒23,136人、教員1,868人）				
他県の状況	里山里海湖に特化したもの、教員向けのプログラムはない。			前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (実績)			
関連事業の有無・役割分担	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)			市町との連携状況	市町教育委員会への周知			
[事業の評価]								
前年度の実績		実績を踏まえた28年度の変更点			事業評価			
あわら市北潟湖周辺および大野市六呂師高原周辺において体験できるメニューをプログラム化。 H26に作成した三方五湖周辺体験プログラムにより16校563名を受け入れ。(10月末現在)		南越地域を対象としたプログラム集を作成。 プログラムの検証を行うため、北潟湖周辺体験で5校、六呂師周辺体験で5校の実践モデル校を設定			<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額
					<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	
					<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他	

せせらぎ定点観測

区分	継続	経費区分	政策的経費	シーリング	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	野坂 雄二
福井ふるさと元気宣言 における位置付け		■ 政推枠	ビジョン [元気な里山里海湖] 政策 [豊かな環境、すぐれた風景を次の世代に]			事業 区分	<input type="checkbox"/> 国庫 <input checked="" type="checkbox"/> 県単 <input type="checkbox"/> その他	■ 実行予算 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他	事業 開始 年度 H26 年度 経過年数 3 年	事業終了 予定年度	H31 年度
関連する県の計画等			[福井県環境基本計画]								
[事業目的] 県内の小学生が地域の河川や用水路をフィールドに水質や水生生物、景観などを調査することにより、地域の水環境に対する関心を高め、将来にわたって、自発的に水環境の保全活動を促すことを目的とする。											
[事業内容] 県内8河川において水質や水生生物、景観等を調査、 ・調査方法 水辺のすこやかさ指標（みずしるべ）を活用した定点観測（水質、生き物等を調査） ・実施時期 7月から8月（夏季休業中） ・対象 県内小学生 ・実施主体 河川の保全活動を行っているNPO・団体等 ・結果報告 各団体等でとりまとめた結果を県ホームページ等で公表 ・支援内容 5年間調査を継続することを要件に団体等に対し、調査用教材（みずしるべ）や調査消耗品（COD簡易検査キット、透視時計等）等の支援を実施											
[予算額の推移等] （単位：千円）											
区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	主な増減理由		
当初予算額の推移		/	/	1,294	1,024	1,068	1,068	1,068			
2月現計予算額の推移		/	/	1,294	814						
決算額の推移		/	/	462							
[成果指標等の推移]											
区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標・指標の考え方・積算根拠		
成果指標	せせらぎ定点観測参加者数 (目標)	/	/	/	(120)	(120)	(120)	(120)	1河川あたり参加者数15人×8河川		
	実績	/	/	/	119						
活動指標	せせらぎ定点観測開催数 (目標)	/	/	/	(8)	(8)	(8)	(8)	間戸川、足羽川、竹田川、九頭竜川、日野川、田倉川、はず川南川で調査実施 ※27年度は雨天増水のため、間戸川での調査中止		
	実績	/	/	/	7						
[財源内訳・事業主体等]											
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	事業主体	県				
予算額	1,068				1,068	事業実施方法	直営				
						補助率	—				

事業評価

事業名	せせらぎ定点観測	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	野坂 雄二	
[事業の必要性・要求の背景]								
<p>河川護岸や農業用水路の整備による親水機会の喪失や、工場・生活排水による水質の劣化などにより、県民、特に子供たちの住んでいる地域の水との関係が希薄になっており、今後、「いのちの源」である水の保全への関心が低下し、水質等がさらに悪化することが懸念される。</p> <p>このため、県内の小学生が地域の河川や用水路をフィールドに水質や水生生物、景観などを調査することにより、地域の水環境に対する関心を高め、将来にわたって、自発的に水環境の保全活動を促す必要がある。</p>								
[受益者]				[想定される受益者数]				
県内小学生				120人				
他県の状況				前事業の有無・実績	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (実績)			
関連事業の有無・役割分担	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)			市町との連携状況				
[事業の評価]								
前年度の実績		実績を踏まえた28年度の変更点			事業評価			
県内7河川で定点観測を実施(119名参加) 九頭竜川(7/21)、南川(7/26)、竹田川(7/28)、日野川(7/29)、 田倉川(7/30)、はず川(8/1)、足羽川(9/5) ※雨天増水のため間戸川での調査中止					<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額
					<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	
					<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他	

「福井ふるさと学びの森」事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	シーリング	外	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	野坂 雄二	
福井ふるさと元気宣言 における位置付け		■ 政推枠 ビジョン	[元気な里山里海湖]			事業 区分	<input type="checkbox"/> 国庫	■ 実行予算	事業 開始 年度	H27 年度	事業終了 予定年度	H30 年度
関連する県の計画等		政策	[豊かな環境、すぐれた風景を次の世代に]				<input checked="" type="checkbox"/> 県単	□ 補助金		経過年数		
			[]				<input type="checkbox"/> その他	□ その他		2 年		
[事業目的]												
県民が里山での体験活動をとおして、人の暮らしと里山との関わりを学ぶ機会を提供し里山を大切に思う人づくりを進めるため、「福井ふるさと学びの森」を開設し、体験プログラムを実施する。												
[事業内容]												
○学びの森 若狭エリア の運営 場所： 若狭町気山（民有林） 内容： ・一般県民を対象とした年間体験プログラムの実施（5回） ・小学校、幼稚園、保育園への里山学習の機会を提供（5回） ・里山林の保全作業の実施												
○学びの森 あわらエリア の運営 場所： あわら市北潟（国有林） 内容： ・一般県民を対象とした年間体験プログラムの実施（5回） ・小学校、幼稚園、保育園への里山学習の機会を提供（3回）												
[予算額の推移等] （単位：千円）												
区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	主な増減理由			
当初予算額の推移		/	/	/	5,488	4,310	3,000	3,000	若狭エリアの整備規模縮小により、予算額が減少			
2月現計予算額の推移		/	/	/	5,488							
決算額の推移		/	/	/								
[成果指標等の推移]												
区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	参加者数	(目標)	/	/	(500)	(510)	(450)	(450)	(450)	イベント参加者30名×15回		
		実績	/	/	590	628						
活動指標	イベント開催数	(目標)	/	/	(8)	(17)	(15)	(15)	(15)	イベント5回開催（荒天による中止含む）×3エリア（若狭、あわら、奥越）		
		実績	/	/	8	17						
[財源内訳・事業主体等]												
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	事業主体		県				
予算額	4,310			諸	15	4,295	事業実施方法		委託			
							補助率		—			

事業評価

事業名	「福井ふるさと学びの森」事業	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	野坂 雄二
[事業の必要性・要求の背景]							
<p>里山に人の手が入らなくなり荒廃が進む現状において、子供たちが身近にある森の中で自然に触れ合う機会が失われている。そのため、荒廃した里山のフィールドを使って、地域団体等が取り組む里山保全活動や、各小学校や幼稚園、保育園等が取り組む幼少教育活動におけるモデルとなる事業を実施し、そこで得られた活動プログラムを展開することで、身近な里山の保全活動し、そのフィールドを活用した体験活動が活性化することを目指す。</p>							
[受益者] 一般県民				[想定される受益者数] 年間360人			
他県の状況		前事業の有無・実績	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 緊急雇用創出事業臨時特例基金事業 (実績) 若狭町気山で長期間放置され荒廃が進んでいた民有林を借りて「福井ふるさと学びの森」を開設。8回の体験イベントを実施し、241人が参加。				
関連事業の有無・役割分担	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 「ふるさと学びの森」ネットワーク事業 (役割分担) 当事業では、県が主体的に進める活動のモデル作りを目的に取り組み、ネットワーク事業では、県内の活動者の支援やレベルアップの機会を提供することによる活動の県内広範囲にわたる浸透を目的に取り組み。		市町との連携状況				
[事業の評価]							
前年度の実績		実績を踏まえた28年度の変更点		事業評価			
若狭エリアに加え、あわらエリア、奥越エリアの2拠点を新たに設け、活動の領域を拡大したことにより、活動指標を達成する見込み。		若狭エリアのフィールド整備においては、森の中を散策するための歩道整備が概ね完了したため、整備にかかる経費を縮小し、体験活動の実施は継続して行う。		<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額
				<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	△ 1,178
				<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他	

④ 「ふるさと学びの森」ネットワーク事業

区分	拡充	経費区分	政策的経費	シーリング	外	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	野坂 雄二
福井ふるさと元気宣言 における位置付け	■ 政推枠 ビジョン [元気な里山里海湖]		政策 [豊かな環境、すぐれた風景を次の世代に]			事業 区 分	<input type="checkbox"/> 国庫 <input checked="" type="checkbox"/> 県単 <input type="checkbox"/> その他	■ 実行予算 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他	事業 開始 年度 H27 年度 経過年数 2 年	事業終了 予定年度 H30 年度	
関連する県の計画等	[]										
[事業目的]											
県内で自然体験活動を行う活動団体をネットワーク化し、活動場所を学びの森として登録。登録団体の活動を支援し、活動のレベルアップを推進することにより、活動の全県展開を図り、県民が気軽に里山に触れ親しむ機会を増やす。											
[事業内容]											
<p>(1) 「ふるさと学びの森」の全県展開（継続）</p> <p>①里山での体験活動に取り組んでいる団体等と活動場所を登録し、「ふるさと学びの森」として活動を展開</p> <p>②学びの森での活動をまとめたパンフレットの作成、ホームページでの情報発信を通じて、活動を広く情報発信</p> <p>(2) 学びの森登録団体への支援（拡充）</p> <p>①登録団体への技術的な指導や助言を行うため、活動の専門家を講師として派遣</p> <p>②活動に必要な資機材の無償貸与を行い、体験場所の整備を充実</p> <p>③体験活動における安全管理体制の向上に資する機材を無償貸与</p> <p>④安全性の向上のための合同研修会を開催（NPO法人自然体験活動推進協議会への委託）</p> <p>⑤福井ふるさと学びの森ネットワーク大会の開催（ネットワーク代表団体に委託）</p>											
[予算額の推移等] (単位：千円)											
区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	主な増減理由		
当初予算額の推移					7,966	3,568	4,000	4,000	整備活動に必要な資機材（ウッドチップパー、薪割り機等）の購入経費分の減少 登録団体への研修会の実施など、支援にかかる経費が増加		
2月現計予算額の推移					7,966						
決算額の推移											
[成果指標等の推移]											
区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標・指標の考え方・積算根拠		
成果指標	登録団体実施のイベント参加者数 (目標)				-	(1,200)	(1,200)	(1,200)	登録団体数30×年間2回イベント開催×平均20人参加		
活動指標	ネットワーク登録団体イベント開催数 (目標)				(17)	(60)	(60)	(60)	H27 登録団体数（各市町1団体以上の登録を目標） H28～各登録団体平均年2回以上のイベント実施		
					30						
[財源内訳・事業主体等]											
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	事業主体		県			
予算額	3,568				3,568	事業実施方法		直営			
						補助率		-			

事業評価

事業名	④ 「ふるさと学びの森」ネットワーク事業	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	野坂 雄二	
[事業の必要性・要求の背景]								
<p>政策合意目標「すべての市町に学びの森」を達成し、県内全域において県民が身近に里山に触れ親しむ機会を創出するため、県内各地で理念を同じくして活動する活動者のネットワークを図り、共にレベルアップしていくことを目指す。</p>								
[受益者]				[想定される受益者数]				
一般県民、活動者				年間680人				
他県の状況				前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (実績)			
関連事業の有無・役割分担	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 「福井ふるさと学びの森」事業 (役割分担) 当事業では、県が主体的に進める活動のモデル作りを目的に取り組み、ネットワーク事業では、県内の活動者の支援やレベルアップの機会を提供することによる活動の県内広範囲にわたる浸透を目的に取り組み。			市町との連携状況	市町が主体的に取り組む活動場所も登録し、連携した活動を実施する。			
[事業の評価]								
前年度の実績		実績を踏まえた28年度の変更点			事業評価			
県内各地における活動者を募集し、学びの森登録を実施中。 全市町における登録を達成できる見込み。		登録した活動団体との連携および活動のレベルアップを推進するため、ネットワーク大会の開催や、安全等の実施、活動にかかる機材等の無償貸与を実施する。 また、27年度で森の整備活動に必要な貸し出し用資機材（ウッドチップパー、薪割り機等）の整備が完了し、28年度も引き続き貸し出しを実施する。			<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額
					<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	△ 4,398
					<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他	

里山里海湖リーダー育成事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	シーリング	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課		課長名	野坂 雄二
福井ふるさと元気宣言における位置付け		■ 政推枠	ビジョン [元気な里山里海湖]			事業区分	<input type="checkbox"/> 国庫	■ 実行予算	事業開始年度	H26 年度	事業終了予定年度	H28 年度
関連する県の計画等			政策 [豊かな環境、すぐれた風景を次の世代に]				<input type="checkbox"/> 県単	□ 補助金		経過年数		
							<input type="checkbox"/> その他	□ その他		3 年		
[事業目的]												
地域で頑張る自然再生団体等のレベルアップを図るため、自然再生団体の指導者等を対象とした里山活動のトップクラス講師による連続講座を実施する。												
[事業内容]												
県内で里山里海湖の保全・再生・活用に取り組む活動者を対象として、県外からの先進的な事例等を学ぶ講座を開催する。												
<ul style="list-style-type: none"> ○開催回数 年5回 ○会場 福井市内（アオッサ） ○受講者 自然再生団体の指導者等 ○受講人数 約40名 ○内容 里山里海湖の保全・再生・活用に関する座学講座 												
[予算額の推移等] (単位：千円)												
区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	主な増減理由			
当初予算額の推移		/	/	302	394	431	500	500	チラシ印刷等実績額に基づき必要経費を算出			
2月現計予算額の推移		/	/	302	394							
決算額の推移		/	/	301								
[成果指標等の推移]												
区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	講座参加者数	(目標)	/	(160)	(200)	(200)	(200)	(200)	講座1回あたり40人			
		実績	/	136	172							
活動指標	講座実施回数	(目標)	/	(4)	(5)	(5)	(5)	(5)	月1回開催×5か月（7月～11月）			
		実績	/	4	5							
[財源内訳・事業主体等]												
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	事業主体		県				
予算額	431				431	事業実施方法		直営				
						補助率		—				

事業評価

事業名	里山里海湖リーダー育成事業	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	野坂 雄二
[事業の必要性・要求の背景]							
<p>里山里海湖の保全・再生・活用に関する活動者のやる気を醸成し活動の活性化につなげていくには、県外等の先進的な幅広い事例を学び、活動に対する刺激を与るとともに、科学的な知見を取り入れていくことが有効であるため。</p>							
[受益者]				[想定される受益者数]			
活動者				年間200人			
他県の状況		前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (実績)				
関連事業の有無・役割分担	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)	市町との連携状況					
[事業の評価]							
前年度の実績		実績を踏まえた28年度の変更点		事業評価			
里山里海湖における生物多様性の保全や、地域資源の活用などをテーマとした連続講座を実施し、132人(4回)参加。		参加者からのアンケート結果等を基に、求められる分野や内容の講義を取り入れていく。 参加者を増やすために活動者への周知を強化するため、各個別回の講座を周知するチラシの印刷製本費を追加する。		<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額
				<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	
				<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他	

里山里海湖活動者表彰

区分	継続	経費区分	政策的経費	シーリング	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	野坂 雄二
福井ふるさと元気宣言における位置付け		■ 政推枠	ビジョン [元気な里山里海湖]			事業区分	<input type="checkbox"/> 国庫	■ 実行予算	事業開始年度 H26 年度 経過年数 3 年	事業終了 予定年度 H30 年度	H30 年度
関連する県の計画等			政策 [豊かな環境、すぐれた風景を次の世代に]				<input type="checkbox"/> 県単	□ 補助金			
[事業目的]											
地域で頑張る自然再生団体等の里山保全・再生・活用に関する活動を幅広く表彰し、県が活動者を積極的に後押しすることにより、県内の里山里海湖保全・再生・活用に関する活動機運の醸成を図る。											
[事業内容]											
○表彰対象 県内の里山里海湖を「守る・学ぶ・活かす・伝える」活動に取り組む地域団体、NPO、学校、企業など											
○表彰者数 10団体程度											
○表彰実施時期 年度末に開催する研究発表会を想定											
[予算額の推移等] (単位：千円)											
区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	主な増減理由		
当初予算額の推移		/	/	218	229	229	229	229			
2月現計予算額の推移		/	/	218	229						
決算額の推移		/	/	210							
[成果指標等の推移]											
区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標・指標の考え方・積算根拠		
成果指標	表彰団体数累計	(目標)	/	/	(10)	(17)	(24)	(31)	(38)	県内での里山里海湖の保全・再生・活用等に関する活動の盛り上がりを醸成し、多くの活動団体を表彰していく	
		実績	/	/	7						
活動指標	表彰団体数	(目標)	/	/	(10)	(7)	(7)	(7)	(7)	毎年県内で活動に取り組む団体を表彰	
		実績	/	/	7						
[財源内訳・事業主体等]											
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	事業主体		県			
予算額	229				229	事業実施方法		直営			
						補助率		-			

事業評価

事業名	里山里海湖活動者表彰	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	野坂 雄二	
[事業の必要性・要求の背景]								
<p>地域で里山里海湖の保全・再生・活用に地道に取り組む活動者には、スポットライトが当たることが少ないため、活動継続に関するやる気の低下が懸念される。頑張る活動者を県が表彰しお墨付きを与えることで、活動者のやる気の醸成や、活動への理解者の増加につながり、活動が活性化されることを目指す。</p>								
[受益者]				[想定される受益者数]				
活動者（一般県民）								
他県の状況				前事業の有無・実績	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (実績)			
関連事業の有無・役割分担	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)			市町との連携状況	表彰団体候補に関する照会をかけ、市町長から候補者を推薦			
[事業の評価]								
前年度の実績		実績を踏まえた28年度の変更点			事業評価			
県内の里山里海湖の保全・再生・活用に取り組む7団体を表彰制度の立ち上げ年度であり、里山里海湖の活動に関する情報が不足していたことから、団体数を絞って表彰したため活動目標を達成できなかった。					<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額
					<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	
					<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他	

自然再生ふくい行動推進事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	シーリング	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	野坂雄二	
福井ふるさと元気宣言 における位置付け		■ 政推枠	ビジョン [元気な社会]			事業 区 分	<input type="checkbox"/> 国庫	■ 実行予算	事業 開始 年度	H20 年度 経過年数 9 年	事業終了 予定年度 H30 年度	野坂雄二
関連する県の計画等			政策 [豊かな環境、すぐれた風景を次の世代に]				<input type="checkbox"/> 県単	□ 補助金				
[事業目的]												
かつてはどこにでも見られた身近な動植物が、近くの小川や田んぼ、家のまわりなどで再び見ることができるよう、県民一人ひとりが身近な自然を守り育む県民活動を推進する。												
[事業内容]												
自然再生支援隊の派遣 地域、団体、学校、企業等が行う里地里山の保全活動、自然環境保全活動、生き物調査などの技術的な指導や助言を行うため、専門家を派遣し、活動をサポートする。 [自然再生ふくい行動プロジェクト参加登録数] 173団体・46個人、合計13,607人 [いきもの百葉箱参加登録数] 119団体、4,675人 [派遣回数] 200回/年												
[予算額の推移等] (単位：千円)												
区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	主な増減理由			
当初予算額の推移		2,858	2,191	646	646	646			H25年度までは、自然再生ふくい行動コンクールを実施していたが、H26年度からは廃止となったため、予算額が減となった。			
2月現計予算額の推移		2,858	2,191	646	646							
決算額の推移		2,122	2,178	546								
[成果指標等の推移]												
区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	いきもの百葉箱・プロジェクト登録人数 (目標)					(19,000)			新規登録者 500人/年			
	実績	16,028	16,387	17,409	18,477							
活動指標	いきもの百葉箱・自然再生支援隊講師派遣回数 (目標)					(50)			講師派遣回数 50回/年			
	実績	92	67	49	53							
[財源内訳・事業主体等]												
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	事業主体		県				
予算額	646				646	事業実施方法		直営				
						補助率		-				

事業評価

事業名	自然再生ふくい行動推進事業	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	野坂雄二	
<p>[事業の必要性・要求の背景]</p> <p>個人、企業、町内会、学校、農業団体など、県民一人ひとりが外来生物の駆除、生き物の生息環境整備などの自然再生活動や、生き物観察等を通じて子どもたちが環境教育に取り組むことを推進するため。</p>								
[受益者]				[想定される受益者数]				
県民								
他県の状況	近隣県では事例がない。			前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (実績)			
関連事業の有無・役割分担	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)			市町との連携状況				
[事業の評価]								
前年度の実績		実績を踏まえた28年度の変更点			事業評価			
<自然再生ふくい行動プロジェクト> ○プロジェクト参加登録数：173団体・46個人、合計13,802人 ○自然再生支援隊派遣回数：27回 <いきもの百葉箱> ○登録数：119団体、4,675人 ○講師派遣：26回		学びの森ネットワーク団体への専門家派遣に利用			<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額
					<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	
					<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他	

里山里海湖人の営み体験講座

区分	継続	経費区分	政策的経費	シーリング	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課		課長名	野坂 雄二
福井ふるさと元気宣言における位置付け		■ 政推枠	ビジョン [元気な里山里海湖]			事業区分	<input type="checkbox"/> 国庫	■ 実行予算	事業開始年度	H26 年度	事業終了予定年度	H30 年度
関連する県の計画等			政策 [豊かな環境、すぐれた風景を次の世代に]				<input type="checkbox"/> 県単	□ 補助金		経過年数		
							<input type="checkbox"/> その他	□ その他		3 年		
[事業目的]												
里山里海湖研究所の来所者に対し、地域のお年寄り等を講師に里山里海湖の伝統的な人の営みを題材とした気軽な体験メニューを提供し、里山里海湖の魅力を幅広い世代に伝える。												
[事業内容]												
<p style="text-align: center;">里山里海湖研究所にて予約なしでも来所者が気軽に体験できるメニューを提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ○受講者 一般（県外者含む）40名程度（土日・祝 1日あたり） ○開催日 土曜・日曜・祝日（年末年始を除く） ○場 所 里山里海湖研究所（展示・里遊びコーナー） ○内 容 お手玉作り、竹笛づくり、杉玉鉄砲など ○講 師 公益社団法人若狭町シルバー人材センターより地域のお年寄りを派遣 												
[予算額の推移等] （単位：千円）												
区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	主な増減理由			
当初予算額の推移		/	/	80	1,907	861	229	229	平成27年度、若狭町シルバー人材センターと連携し事業を実施したことにより、安価に事業実施が行えたため、平成28年度予算額を縮小する。			
2月現計予算額の推移		/	/	80	1,907							
決算額の推移		/	/	80								
[成果指標等の推移]												
区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	来所者数	(目標)	(1,000)	(3,000)	(6,000)	(10,000)	(10,000)	(10,000)	展示・体験メニューの充実を図り、来所者数の増加を目指す			
		実績	1,196	5,326								
活動指標	実施体験メニュー数	(目標)		(8)	(12)	(14)	(16)	(18)	里山の自然素材を使った体験メニューについて、年々拡大を目指す			
		実績	/	8	15							
[財源内訳・事業主体等]												
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	事業主体		県				
予算額	861				861	事業実施方法		直営・委託				
						補助率		—				

事業評価

事業名	里山里海湖人の営み体験講座	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	野坂 雄二	
[事業の必要性・要求の背景]								
<p>里山里海湖研究所を県民が気軽に集う拠点にしていくために、気軽に里山里海湖に触れることができる体験メニューを来所者に提供し、親しみのある施設にしていく必要がある。</p>								
[受益者]				[想定される受益者数]				
一般県民、県外からの来所者				年間1万人程度				
他県の状況				前事業の有無・実績	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (実績)			
関連事業の有無・役割分担	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)			市町との連携状況				
[事業の評価]								
前年度の実績		実績を踏まえた28年度の変更点			事業評価			
所内での勉強会、アイデア出しを積極的に実施し、体験メニューを強化したことにより活動指標を達成。 道の駅開所により、近隣施設への訪問者が増加。その取り込みを狙って様々な体験メニューを提供したことにより、研究所への来所者数も増加が図られ、成果指標を達成。		体験講座の実施を維持しながら、シルバー人材センターと連携し安価に事業を実施することにより、予算規模を縮小して対応する。			<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額
					<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	△ 1,046
					<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他	

全国里山里海湖関連フォーラム等誘致事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	シーリング	外	部局名	安全環境部	課名	自然環境課		課長名	野坂 雄二	
福井ふるさと元気宣言における位置付け		■ 政推枠	ビジョン [元気な里山里海湖]			事業区分	<input type="checkbox"/> 国庫	■ 実行予算	事業開始年度	H27 年度	事業終了予定年度	H30 年度	
関連する県の計画等			政策 [豊かな環境、すぐれた風景を次の世代に]				<input type="checkbox"/> 県単	□ 補助金		経過年数			2 年
[事業目的]													
<p>県外からの参加者が集まるフォーラムや研修会などの県内における開催を誘致し、全国からの研究者や活動者に対し、福井の里山里海湖の魅力を発信するとともに、県内活動者等との交流によるネットワークの拡大や先進的な知見・技術の取り込みにつなげていく。</p>													
[事業内容]													
<p>(一財)日本緑化センターが主催する自然再生士の認定講習を東京・大阪以外で唯一本県での開催を誘致するとともに、資格認定者を対象とした全国唯一の実地研修を開催することにより、県外からの自然再生のスペシャリストを呼び込み、県内活動者との交流を進めるとともに、知見の取り込みによる本県の自然再生活動の活性化・高度化を図る。</p> <p>(1) 自然再生の集中講座の開催 (3日間) [322千円] ○内 容 自然再生の技術や生き物の生態を学ぶ集中講座(座学2日間)を開催するとともに、県内の里山里海湖を巡るエクスカージョンを開催 ○対 象 全国の自然再生志向者 約200名 ○実施時期 平成28年8月(予定)</p> <p>(2) 自然再生実地研修の開催 (3日間) [1,092千円] ○内 容 自然再生活動の現場にて、体験しながら自然再生技術の手法や考え方を学ぶ実地研修を開催 ○対 象 全国の自然再生活動者 約50名 ○実施場所 越前市白山・坂口地区 ○実施時期 平成28年7月(予定)</p>													
[予算額の推移等] (単位：千円)													
区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	主な増減理由				
当初予算額の推移		/	/	/	995	1,414	1,500	1,500	(一財)日本緑化センターが主催する自然再生士の認定講習の県内開催にあわせて、参加者を集めて県内の里山里海湖を巡るエクスカージョンを実施するための経費を追加				
2月現計予算額の推移		/	/	/	995								
決算額の推移		/	/	/									
[成果指標等の推移]													
区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標・指標の考え方・積算根拠				
成果指標	県外参加者数	(目標)	/	/	(150)	(150)			自然再生士資格制度と連携し、県外からの参加者を呼び込むとともに、エクスカージョンの開催により東京や大阪で開催される講習との差別化を図る。				
		実績	/	/	119								
活動指標	開催回数	(目標)	/	/	(2)	(2)			座学の集中講座と県内里山里海湖を巡るエクスカージョンを開催(1回) 現場で自然再生技術の手法や考え方を学ぶ実地研修の開催(1回)				
		実績	/	/	2								
[財源内訳・事業主体等]													
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	事業主体		県					
予算額	1,414			諸	120	1,294	事業実施方法		直営				
							補助率		-				

事業評価

事業名	全国里山里海湖関連フォーラム等誘致事業	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	野坂 雄二
[事業の必要性・要求の背景]							
<p>県外からの参加者が集まるフォーラムや研修会を誘致することは、県外者に本県の魅力を発信するだけでなく、県内の活動者の参加による知見の取り込み、県外者との交流による活動意欲の向上などにつながるため有意義であると考えます。</p> <p>また、技術を持つ者が集まる実地研修を行うことで、活動者のレベルアップだけでなく、自然再生の取り組みを必要とする現場の再生を促進することにつなげることを目指す。</p>							
[受益者]				[想定される受益者数]			
県外者、県内活動者							
他県の状況	自然再生士の認定講習は、東京・大阪以外では、福井県の実施となる。 また、資格認定者を対象とした実地研修は全国で福井県の実施となる。	前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (実績)				
関連事業の有無・役割分担	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)	市町との連携状況					
[事業の評価]							
前年度の実績		実績を踏まえた28年度の変更点		事業評価			
自然再生、環境保全、生物多様性をテーマとした講座を開催し、 県外105名、県内55名が参加(8/29、30) 自然再生手法を現場で学ぶ実地研修を敦賀市池河内で開催し、 県外14名、県内3名が参加(10/2~4)		認定講習とあわせて、県内の里山里海湖をめぐるエクス カーションを開催する。		<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額
				<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	
				<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他	

「里山里海湖」研究・活用推進事業（運営費）

区分	継続	経費区分	政策的経費	シーリング	一部内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	野坂 雄二	
福井ふるさと元気宣言における位置付け		■ 政推枠	ビジョン [元気な里山里海湖]			事業 区 分	<input type="checkbox"/> 国庫	■ 実行予算	事業 開始 年度	H25 年度	事業終了 予定年度	30 年度
関連する県の計画等			政策 [豊かな環境、すぐれた風景を次の世代に]				<input type="checkbox"/> 県単	□ 補助金		経過年数		
							<input type="checkbox"/> その他	□ その他		4 年		
[事業目的]												
里山里海湖研究所の活動を行うために必要となる、嘱託職員人件費や、所長・アドバイザーの報償費・旅費、施設運営にかかる光熱水費、通信運搬費等を計上する。												
[事業内容]												
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究所所長、研究アドバイザーにかかる費用（報償費、旅費） ・ 嘱託職員にかかる費用（賃金、共済費、通勤旅費） ・ 施設管理にかかる費用（光熱水費、通信運搬費） ・ 公用車にかかる費用（公用車リース料、燃料費） <p style="margin-left: 20px;">など</p>												
[予算額の推移等] （単位：千円）												
区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	主な増減理由			
当初予算額の推移		/	12,046	28,754	20,348	21,497	17,791	17,791	(26⇒27) 生き物調査事業（1,000千円）の事業化による減 (26⇒27) ホームページ構築分の減少 (27⇒28) 職員旅費の計上を行わないため減少 (27⇒28) 公用車リース等の長期継続契約締結による減少			
2月現計予算額の推移		/	12,046	28,754	19,865							
決算額の推移		/	11,943	28,716								
[成果指標等の推移]												
区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	(目標) 実績								研究所の運営に必要な事務的経費であるため、成果・目標の設定は困難			
活動指標	(目標) 実績											
[財源内訳・事業主体等]												
区分	事業費	国庫	起債	その他		一般財源		事業主体		県		
予算額	21,497			諸	1,789	19,708		事業実施方法		直営		
								補助率		—		

事業評価

事業名	「里山里海湖」研究・活用推進事業（運営費）	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	野坂 雄二	
[事業の必要性・要求の背景]								
研究所における活動を実施するために必要となる経費を計上する必要があるため								
[受益者]				[想定される受益者数]				
他県の状況				前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (実績)			
関連事業の有無・役割分担	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)			市町との連携状況				
[事業の評価]								
前年度の実績		実績を踏まえた28年度の変更点			事業評価			
研究所の活動がスムーズに執行できるよう、適切な管理運営を行うことができた。					<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額
					<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	
					<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他	

「年縞」活用推進事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	シーリング	外	部局名	安全環境部	課名	自然環境課		課長名	野坂 雄二
福井ふるさと元気宣言 における位置付け		■ 政推枠	ビジョン [元気な社会 政策 [豊かな環境、すぐれた風景を次の世代に]			事業 区分	■ 国庫 ■ 県単 ■ その他	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	H27 年度 経過年数 2 年	事業終了 予定年度	H29 年度
関連する県の計画等			[新幹線・中縦開業アクションプログラム]									
[事業目的]												
福井が世界に誇る宝である水月湖「年縞」を教育・観光などに有効に活用するため、年縞研究展示施設の整備を進め、国内外における年縞研究の推進を図る。												
[事業内容]												
年縞展示施設の整備（27～29年度） 建築・展示実施設計 等 年縞の活用 年縞の実物を研究試料として提供 年縞の今後の活用方法を検討												
[予算額の推移等] (単位：千円)												
区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	主な増減理由			
当初予算額の推移		/	/	/	87,560	69,197	1,117,998		セルソーターの購入費の減			
2月現計予算額の推移		/	/	/	87,502							
決算額の推移		/	/	/								
[成果指標等の推移]												
区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	年縞研究展示施設開館	(目標)	/	/	/				平成30年度開館に向けて整備を進める。			
		実績	/	/	/							
活動指標	年縞研究展示施設の整備	(目標)	/	/	/				・平成28年度 実施設計、年縞実物加工、建築工事（～29年度まで） ・平成29年度 年縞実物加工、外構工事			
		実績	/	/	/							
[財源内訳・事業主体等]												
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	事業主体	県					
予算額	69,197	29,145		財・繰入 34,581	5,471	事業実施方法	直営					
						補助率	—					

事業評価

事業名	「年縞」活用推進事業	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	野坂 雄二
<p>[事業の必要性・要求の背景]</p> <p>水月湖「年縞」は、世界標準の「ものさし」としての世界的評価や気候変動等の環境復元など、地域の自然環境史や里山起源を解明する上で欠くことのできない世界に誇れる地域資源である。本県の豊かな自然と里山里海湖が長年の年月をかけ育んだシンボリックな存在である「年縞」を活用し研究の推進、展示、教育普及活動を行うための拠点整備を行う。</p>							
[受益者]				[想定される受益者数]			
県民、考古学や地質学、気候変動等の研究者				30,000人			
他県の状況	<p><類似施設概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・滋賀県立琵琶湖博物館【滋賀県】 敷地面積 42,434㎡ 延床面積 23,987㎡ ・立山カルデラ砂防博物館【富山県】 (県立) 敷地面積 4,707㎡ 延床面積 3,159㎡ ・石川県立自然史資料館【石川県】 敷地面積 10,719㎡ 延床面積 3,786㎡ ・富山県立山センター 立山自然保護センター 敷地面積 912㎡ 延床面積 924㎡ ・石川県白山自然保護センター 中宮展示館 敷地面積 5,495㎡ 延床面積 1,231㎡ 			前事業の有無・実績	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 「年縞」採取・活用推進事業 (実績) 水月湖湖底から「年縞」を採取し、記録映像や展示用標本の製作、展示研究施設基本計画の策定を行った。		
関連事業の有無・役割分担	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 「里山里海湖」研究・活用推進事業 (役割分担) 里山里海湖研究所において里山里海湖に関する様々な分野の研究や自然再生活動の参加者が集い、地域と共働による「研究」「教育」「実践」を行うとともに、里山里海湖研究所が年縞研究展示施設の管理運営を行う。			市町との連携状況	年縞研究展示施設の建設用地および人員について若狭町から協力を受ける予定		
[事業の評価]							
前年度の実績		実績を踏まえた28年度の変更点		事業評価			
年縞研究展示施設の30年の開館に向け、建築・展示の基本設計を実施した。 また、年縞の研究を更に進めるため、10月に立命館大学と年縞を基にした共同研究の協定を締結した。		28年度は、施設の実設計を行うとともに、26年度に採取した水月湖年縞を展示するため加工処理を行う。		<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 終期の見直し <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> その他	見直し額

海浜自然センター特別企画事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	シーリング	外	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	野坂雄二	
福井ふるさと元気宣言における位置付け	<input type="checkbox"/>	政推枠	ビジョン [元気な社会]			事業区分	<input type="checkbox"/> 国庫	<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算	事業開始年度	H27 年度 経過年数 2 年	事業終了 予定年度	H30 年度
関連する県の計画等		政策	[豊かな環境、すぐれた風景を次の世代に]				<input type="checkbox"/> 県単	<input type="checkbox"/> 補助金				
[事業目的]												
センターの活用や来館を促進するため、主催事業や出張講座の内容を紹介したり海や湖に親しんだりする特別企画を開催する。												
[事業内容]												
①海域公園清掃と外来種駆除イベント 6月11日(土)・6月12日(日)【テーマ：うみ(海湖)を守る】												
②星空観察とナイト アクアリウムイベント 10月29日(土)・10月30日(日)【テーマ：うみ(海湖)をあじわう】												
[予算額の推移等] (単位：千円)												
区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	主な増減理由			
当初予算額の推移				3,780	2,557	2,557	3,361	3,361	H26はリニューアルオープン記念式典を実施。式典開催に伴う式典看板、式典運営、オープン告知用パンフレットなどの予算分についてH27に減額			
2月現計予算額の推移				3,780	2,557							
決算額の推移				3,780								
[成果指標等の推移]												
区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	来館者数	(目標) (80,000)	(50,000)	(100,000)	(110,000)	(120,000)	(120,000)	(120,000)	環境月間にイベントを開催し、環境保全の啓発をする。来館者の落ち込む冬の前にイベントを開催し、新しい客層を獲得し、秋・冬の来館者増を図る。※H27実績は9月末時点			
		実績 63,480	41,013	117,340	85,106							
活動指標	イベント来場者数	(目標)		(31,000)	(12,000)	(10,000)	(10,000)	(10,000)	H27リニューアル1周年(4,000人)、夏のイベント+ナイトアクアリウム(5,000人) H28海域公園清掃と外来種駆除イベント(5,000人)、星空観察とナイトアクアリウムイベント(5,000人)※前年度の集客をもとに算出			
		実績		32,090	15,530							
[財源内訳・事業主体等]												
区分	事業費	国庫	起債	その他		一般財源		事業主体	県			
予算額	2,557			繰入 2,557		0		事業実施方法	直営			
								補助率	-			

事業評価

事業名	海浜自然センター特別企画事業	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	野坂雄二	
<p>[事業の必要性・要求の背景]</p> <p>H26、H27とイベントを開催し、年間来館者数の1割を超える来館者を得た。当センターは、舞鶴若狭自動車道の若狭三方IC、若狭上中IC、小浜ICから約20分前後で来館できる。交通の便が向上したことで関西方面・中京方面からの来館者も多い。食事処がない地域に、イベントによって1万人以上の集客があることで、若狭地域への経済効果が見られる。</p> <p>リニューアル以降、夏休み期間中は多くの来館者を得ている。反面、10月以降の来館者が減少しており、秋冬のうみ（海湖）の魅力を伝えるためのイベントを開催し集客を図る。</p>								
[受益者]				[想定される受益者数]				
体験イベント参加者				1,000				
他県の状況	(1) 島根県立しまね海洋館 年間来館者数40万人（毎月数日間の企画イベントを実施） (2) 富山県 北陸電力エネルギー科学館「ワンダー・ラボ」（年間来館者数約10万人、年間7～8回大型イベント開催、1回当たりの予算約150万円程度、1日約2,000人利用） (3) 福井県 児童科学館（年間来館者数57万人、年間4回大型イベント開催、1回当たりの予算約400万円程度、1日約5,000人利用） (4) 富山県中央植物園（年間来館者数10万人、年間2～3回大型イベント開催、1回当たりの予算額100万円程度、1日約2,000～8,000人利用）その他広報費として150万円程度（ラジオ100万円、チラシ・ポスター50万円程度） ※どの施設も、イベントを開催して集客を図っている。	前事業の有無・実績	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 海浜自然センターリニューアル事業 （実績） ・「オープニングイベント」…5,752人 ・「夏休み特別企画」…イベント3日間7,996人、土日お盆休日17日間18,342人 ・イベント合計32,090人					
関連事業の有無・役割分担	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 自然体験講座開催事業 （役割分担） 当センターの自然体験講座開催事業について紹介したり、参加の予約を受け付けたりするなど、講座参加率向上を図る。	市町との連携状況	・若狭町祭り「若祭」プレイベント「ナイトアクアリウム」の連携 ・若狭町祭り「若祭」への参加協力 ・H28の海域公園清掃イベントのゴミ処理については、ボランティア活動として処理費用を免除（若狭町）					
[事業の評価]								
前年度の実績		実績を踏まえた28年度の変更点			事業評価			
4月に当センターが実施する自然体験講座、7月に「うみ（海湖）を楽しむ」をテーマにうみ（海湖）を利用した活動を紹介し、15,000人を超える来館者を得た。 当センターの春から夏にかけての体験はイベントを通して周知され、4月～9月に年間の約8割の来館者が当センターを訪れている。		今年度は、環境月間の6月に海中、海岸を清掃するイベントを開催し、環境保全の啓発を行うものとする。また、10月以降の来館者を誘発するためにイベントを開催し、秋・冬の当センターの楽しみ方を紹介する。 これまでは、家族、子どもを中心とした来館者が大半であったので、カップルや成人男性を対象にした企画を取り入れ、新しい客層を開発する。			<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 終期の見直し <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> その他	見直し額